

第64回全国植樹祭お野立所新築工事基本・実施設計業務プロポーザルの最優秀提案者の特定結果

総評

1 審査の経過

第64回全国植樹祭お野立所新築工事基本・実施設計業務の設計候補者の特定に関し、3回の審査専門委員会を開催し審議を行った。

(1) 第1回審査専門委員会(平成23年9月5日)

第1回審査専門委員会では、事務局より工事計画の概要、公募型プロポーザルの基準及び手続きについての説明を受け、プロポーザル実施要領、企画提案書作成要領及び評価基準について審議を行い、参加要件等について次の方針とした。

1. 実績の少ない者も応募できるよう資格・実績の前提要件は最小とする。
2. 同種実績は、木構造の架構が見える建物であって公共建築以外も含める。
3. 常設の建築物として利用される構造とすることを求める。

また、企画提案の評価にあたっては、企画提案書の内容とヒアリングの結果により総合的に判断するものとした。

(2) 第2回審査専門委員会(平成23年9月21日)

参加申込書の提出者7名のうち、参加資格要件を満たさない1者を除く6者の参加申込書の内容について審議を行い、各委員が評価を行った。委員の総合点を基に、審議を行った結果、参加希望者の点数に大きな差がないことから6者全員を提案者に選定した。

(3) 第3回審査専門委員会(平成23年11月9日)

企画提案書の提出者6名から、個別ヒアリングを実施した。ヒアリングは、各提案者毎のプレゼンテーション10分、質疑応答等20分の計30分で実施した。この後、企画提案書について委員ごとに点数評価を行い、この総合点と個別ヒアリングの結果について最終審議を行い、得点上位の者を最優秀提案者として特定した。

最優秀提案者 杵村建築設計事務所
次 点 (株)桜や 建築設計工房

2 全体講評

本プロポーザルで設計者を特定するお野立所は、第64回全国植樹祭式典会場のシンボリックな施設であり、設計にあたっては第64回全国植樹祭基本構想に基づき、積極的に県産材を使用し、「心癒される森林づくり」として里山林等の森と親しみながら共生してゆくライフスタイル、就業スタイル等を表現することが必要である。

このため、本公募型プロポーザルは、本施設の設計について高度な技術力と専門的な知識及び経験を有する設計者による質の高い設計業務を実現するとともに、設計者の選定に係る透明性及び公平性を確保することを目的に行われた。

また企画提案書を提出された6者は、十分な業務実績や配置予定技術者も備えており、また提案内容やプレゼンテーションからは、本業務に真摯に取り組もうという意気込みが十分に感じられた。

ただし、今回のような晴れやかな舞台を飾るシンボル施設にふさわしく、大変魅力的な建築だと言える作品が少なかったのではないかと感じられた。応募作品が少ないことにも関連しているだろうが、このようなプロポーザルの在り方そのものを検討する必要があるようにも感じられた。

しかしながら、最優秀提案者に選ばれた杵村建築設計事務所は、デザイン的にも構造的にも工法的にも、県産材や環境への配慮、機能面、経済面など、多方面で無理がなくよく練られた案と考えられ、企画提案書からもその取り組み意欲は十分に伝わった。

デザインは全体的にやわらかく丸い形状とし、式典時の機能面も大変使いやすく両陛下への配慮等よく考えられていた。またこのような丸い形状は他の案にはないもので、会場となる花回廊既存施設との一体感もあり、また式典後の野外ステージとしても、コンサート会場のイメージを損なうことなく、要件にはなかったトイレまで含めてよく提案されていた。

また、次点となった(株)桜や建築設計工房も、デザイン、構造、県産材や環境への配慮など、多方面でよく練られた案と感じられ、全体的な意匠は最優

秀提案者と対称的な力強い古代の妻木晩田遺跡の住居建築をイメージさせるもので鳥取県のイメージをよく考慮していると見受けられたが、花回廊既存施設との一体感や、式典後のコンサート会場としてのイメージ、その他機能面等がわずかながら最優秀案に届かなかったものである。点数評価からも、この2者が最終的な選考に残っていた。

その他の提案も、環境への配慮や木の素材にこだわって柿葺きや県産材を活用する提案、また鳥取県の職人技として欄間建具や鰻絵などを用いる提案など、部分的には意欲的な提案も見られたが、全体としてのまとまりやバランスに欠けているところや部分的な欠点等、最終的な提案力が及ばなかったと思われる。応募いただけたことはありがたかったが、今後に期待するところである。

最後に、本プロポーザルでは参加申込書が7者しか集まらなかったことが大変残念であった。時期的な問題や資格要件の制約も一因と思われるが、鳥取県内の建築設計事務所にさらなる努力や挑戦を期待したい。

また併せて今後このようなプロポーザルでは、より多くの魅力的なアイデアを集めるため、また県内設計事務所のレベルアップや若手育成を目指し、できるだけ資格要件を少なくするなど、若手の小規模設計事務所でも応募できるような方法を考慮していただきたい。